

保育園の「園外へ歩いて出かける活動」に関する 保育課程編成時の留意点

ーカリキュラムマネジメントの観点からの考察ー

森 英子*, 横松 友義**

(平成25年6月18日受付, 平成25年12月3日受理)

Pointers on “Japanese preschoolers’ walking activity outside of their preschools” for curriculum building in preschools : Focusing on curriculum management

MORI Hideko *, YOKOMATSU Tomoyoshi **

This study provides, from the viewpoint of curriculum management, pointers on “Japanese preschoolers’ walking activity outside of their preschools” for curriculum building in preschools.

First, from the national commentary on the Day Care Guideline, we selected words and phrases that are used to describe the children’s activities and clarified keywords, locations, contents, significance, and other matters for staff members in preschools to consider. Next, we investigate the differences in descriptions of the activity between the national commentary on the Day Care Guideline and that on the National Curriculum Standards for Kindergartens and consider the characteristic modes of the preschoolers’ activity. Finally, on the basis of the results, we develop pointers on “Japanese preschoolers’ walking activity outside of their preschools” for curriculum building in preschools.

Key Words : Japanese preschoolers’ walking activity outside of their preschools, curriculum building in preschools, curriculum management, the national commentary on the Day Care Guideline

I. 研究目的

1. 保育園^(注1) 保育において「園外へ歩いて出かける活動」に注目する理由

本研究では、「園外へ歩いて出かける活動」(以下, 主に「研究対象活動」と呼ぶ)に注目している。それは, 次の理由からである。

『保育所保育指針解説書』(2008)⁽¹⁾で指摘されているように, 「日常生活において, 子どもたちは, 地域の自然に接したり, 異年齢の子どもをはじめとする幅広い世代の人々と交流したり, 社会の様々な文化や伝統に触れたりする直接的な体験が不足しがちとなって」いる。また, 『幼稚園教育要領解説』(2008)⁽²⁾の領域「環境」でも, 「テレビやビデオなどを通しての間接体験の機会が増えて, 「かつては, 地域の人々の営みの中にあふれていた季節感も失われつつある」というように, 季節そのものや季節変化にかかわる体験の乏しさが問題視されている。さらに, また, 水野豊二(1999)⁽³⁾は, 「園の子どもたちの生活も園内のみ活動だけでは満たされず, 子どもたちの当然の欲求として園外の自然や社会に飛び出し, 刺激を受け, このことが子どもたちの生活や遊びに反映

するのです」と述べている。

つまり, 間接体験の機会が増えて実体験が不足しているので, 自然や季節変化に直接かかわったり, 幅広い世代の人々と交流したり様々な文化・伝統に直接触れたりして, 学びの幅を広げることが重要であると考えことから, 「園外へ歩いて出かける活動」に注目するのである。

2. 保育園カリキュラムマネジメントの観点から保育課程編成時に「園外へ歩いて出かける活動」に関して重視すべき視点

この研究対象活動の実践の案出にあたり, 今日では, カリキュラムマネジメントの考え方を導入する必要がある。カリキュラムマネジメントは, 教育課程の基準の改革を各学校で実現するため, 各学校が, 国の基準を正確に把握した上で, 組織としてPDCAサイクルを回すことである。言い換えれば, 各学校で, 国の基準をカリキュラムに反映させ, 実践し, 評価・検討し, 改善することで, 現在の教育課程の基準を実現しようとするわけである。わが国では, カリキュラムマネジメント研究は, 小中高等学校において発展してきたが, 今日では, 保育

* 白ゆり保育園 (Shirayuri Preschool)

** 岡山大学 (Okayama University)

園や幼稚園でも開始されている。^(注2)

カリキュラムマネジメントの考え方に基づけば、保育課程を編成する際、研究対象活動に関して次の2つの点を重視する必要がある。一つは、国の基準を実現することであり、今一つは、国の基準を踏まえつつ、その園の独自性や創意工夫を発揮することである。

1)『保育所保育指針解説書』に述べられている「園外へ歩いて出かける活動」に関する基準の充足

保育所保育指針は、わが国の保育園保育の最低基準として、保育園における保育の内容やこれに関する運営等について定めたものである。この保育指針に基づき、全国の保育園においては、保育を実施することになっている。そして、『保育所保育指針解説書』⁽⁴⁾は、「告示化された保育指針の内容が、広く保育現場に浸透し、その趣旨が理解されるように、また、保育指針に示される基本原則をしっかりと踏まえた上で、各保育所がそれぞれの特徴を生かし、創意工夫を図っていくための助けとなるように作成され」たものである。だから、「園外へ歩いて出かける活動」に関しては、『保育所保育指針解説書』に述べられている国の基準を正確に把握する必要がある。そして、保育課程に含まれるこの研究対象活動の全体によって、国の基準を満たすように、実践の案出することが、保育課程編成時に重視すべき一つの視点になる。

2)『保育所保育指針解説書』を踏まえた上での園の特長となる「園外へ歩いて出かける活動」の案出

保育課程編成時に重視すべきもう一つの視点は、国の基準を踏まえつつ、その園の独自性や創意工夫を発揮することである。『保育所保育指針解説書』⁽⁵⁾では、第1章総則の「1. 趣旨」で「(2) 各保育所は、この指針において規定される保育の内容に係る基本原則に関する事項等を踏まえ、各保育所の実情に応じて創意工夫を図り、保育所の機能及び質の向上に努めなければならない。」とあり、保育所保育指針に規定されている基本原則を守りつつ、各保育園の実情を踏まえ、創意工夫を図り保育することが求められている。この点にかかわって畠山和人(2007)⁽⁶⁾は「保育園の魅力づくりには、基本中の基本は徹底した上で、プラスアルファを求める」と述べている。また、幼稚園に関しても雑賀竜一(2012)⁽⁷⁾が、「『自園の魅力・強み・自慢できること』をさらに伸ばす視点を持つこと」を重視している。このように、創意工夫によって強みを伸ばすことで魅力ある園にすることは保育園のみでなく、保育施設全体において重視されているといえる。よって、保育課程編成時に『保育所保育指針解説書』を踏まえつつ、先行研究ないし先行実践報告の成果を取り入れるなどしながら創意工夫を行って、園の強み(特長)となる「園外へ歩いて出かける活動」の実践を案出するということは重要な視点であると考えられる。

3. 本研究の目的

「園外へ歩いて出かける活動」の実践に当たっては、今日、カリキュラムマネジメントの視点が必要である。すなわち、国の基準である保育所保育指針における関係部分を正確に把握し、PDCAサイクルの流れの中で、その内容を実現することが必要である。したがって、保育所保育指針の中で、研究対象活動が、例えばどのような保育的意義を持つものとされており、どのような配慮事項が示されているものであるかを把握しておく必要がある。しかしながら、先行研究ないし先行実践報告の成果では、その整理がなされていない。当然、保育所保育指針と幼稚園教育要領とでの記述内容の相違点についても明らかにされていない。

そこで、本研究では、「園外へ歩いて出かける活動」に関して、保育課程編成時に重視すべきである国の基準の充足を実現するための留意点を明らかにする。具体的には、まず、研究対象活動を表す記述を『保育所保育指針解説書』の全章より抽出し、そのキーワードと活動の場所及び内容を明らかにする。続いて、その記述を手がかりとして、『保育所保育指針解説書』の中で、研究対象活動が全体としてどのような保育的意義をあたえられているか、どのような配慮事項が示されているかを明らかにする。そして、さらに、幼稚園教育要領での考え方との相違点を明らかにして、保育園特有の研究対象活動のあり方について考察する。その上で、保育課程編成時に研究対象活動に関する国の基準を充足するための留意点について考察する。

なお、この留意点が整理され把握できることは、保育園において「園外へ歩いて出かける活動」についての国の基準を充足させるための第一歩になる、言い換えれば、そのカリキュラムマネジメントの第一歩になると考えられる。そして、各保育園では、本研究の成果を踏まえつつ、実情に応じながら創意工夫を図って、保育課程内に研究対象活動が案出され、それが、年間指導計画、そして、期間指導計画へと具体化されていく。ただし、その実践の段階に至ると、個々の保育者による発達援助の視点が重視されるので、それらとの両立・統合が不可欠になる。その手順を開発することは、今後の課題である。

II.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」に関する記述の分析と考察

1.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」を示す記述の抽出

『保育所保育指針解説書』全章より「園外へ歩いて出かける活動」を表している記述を抽出し、キーワード(研究対象活動と判断する根拠となる単語)により類型化し、キーワードごとの掲載回数を数量化すると、表1の

ようになる。なお、この表では、キーワードが入っている記述でも、子どもの活動を意味したものでないものは除外している。また、交通機関を使用して出かける可能性がある活動であっても、歩いて出かける可能性のあるものはすべて抽出し、園外の活動も含むが園内の活動も考えられるものには、記述の後に括弧書きで（園外活動のみ対象）と補足している。

具体的記述内のキーワードには網掛けをし、キーワードが2つ入っている場合、それぞれのキーワードで具体的な記述として挙げている。

研究対象活動と判断した根拠となるキーワードとその掲載回数は、「地域」が9回、「保育所外」・「保育所…外」が6回、「散歩」が5回、「出かけ」が3回、「近隣」が3回、「野外」が1回、「訪れ」が1回である。その内、2つのキーワードの含まれる具体的な記述が4箇所ある。

2.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」の具体的内容

1)「園外へ歩いて出かける活動」の行われる場所

表1の研究対象活動の具体的な記述より、その活動の行われる場所として明らかな所を整理すると次のようになる。

一つは、「高齢者施設」、「施設等」、「公園」、「広場」のような公共の場である。具体的施設名として挙げられている公園、広場に関しては、保育園より歩いていくことができる場所にあることが多く、利用しやすいといえる。また、高齢者施設が特に施設名として挙げられており、特に強調されているといえる。

今一つは、「自然」、「自然環境の豊かな場所」、「動植物や土、砂、水や光、それらを含めた野外の自然」のような自然のある場所である。「自然環境の豊かな場所」、「動植物や土、砂、水や光、それらを含めた野外の自然」の記述のように、いろいろな種類の自然がある自然環境の豊かな場所であることが求められているといえる。

さらに今一つは、目的地までの移動経路ないしコースそのものである。「地域の自然に接したり」、「散歩に出かけて自然と触れ合う」、「近隣の…環境」など、身近な自然と接したり、行き交う人とかわったり、人の生活を見たりと、コースそのものが貴重な体験のできる活動場所とされている。

2)「園外へ歩いて出かける活動」の内容

表1の具体的な記述より、研究対象活動の内容を分類すると以下のようになると考える。

表1.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」と判断した根拠となるキーワードとその具体的な記述と掲載回数

研究対象活動のキーワード	具 体 的 記 述	掲載回数
地域	「地域の安全に関わる行事などに参加」(p. 71) 「地域の高齢者施設などを訪れ」(p. 80) 「地域の自然に接したり」(p. 147) 「地域社会で子どもが身近な環境に触れ」(p. 147) 「地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用」(園外活動のみ対象)(p. 147) 「地域の資源を活用」(園外活動のみ対象)(p. 148) 「地域社会との積極的な交流」(園外活動のみ対象)(p. 148) 「地域の諸機関の協力の下に安全指導」(園外活動のみ対象)(p. 167) 「近隣の地域住民、…との連携」(園外活動のみ対象)(p. 167)	9
保育所外	「保育所内外の空間や物的環境、様々な遊具や素材、自然環境を生かし」(p. 20) 「保育所内外の行事などに喜んで参加する」(p. 88) 「保育所内外の行事に参加し」(p. 88) 「公園や野原など、保育所外へ出かけて」(p. 117) 「保育所内外において子どもが豊かな体験を得る」(p. 147) 「保育所外での活動」(p. 148)	6
散歩	「散歩」(3回)(p. 68, p. 80, p. 84) 「散歩に出かけて自然と触れ合う」(p. 83) 「散歩経路」(p. 167)	5
出かけ	「公園や広場など、自然環境の豊かな場所に出かけ、戸外で遊ぶ」(p. 68) 「散歩に出かけて自然と触れ合う」(p. 83) 「公園や野原など、保育所外へ出かけて」(p. 117)	3
近隣	「近隣の生活」(P. 88) 「近隣の人々の生活や環境」(p. 88) 「近隣の地域住民、…との連携」(園外活動のみ対象)(p. 167)	3
野外	「動植物や土、砂、水や光、それらを含めた野外の自然に触れて」(p. 83)	1
訪れ	「地域の高齢者施設などを訪れ」(p. 80)	1

※ 部分は、研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。()内は、ページを表す。

(1) 地域の行事への参加や地域社会との交流

「地域の安全に関わる行事などに参加」、「地域の高齢者施設などを訪れ」、「地域社会との積極的な交流」（園外活動のみ対象）、「地域の諸機関の協力の下に安全指導」（園外活動のみ対象）、「保育所内外の行事などに喜んで参加する」、「保育所内外の行事に参加し」というように、地域の行事へ参加する活動や地域社会との交流が挙げられており、中でも安全指導や高齢者とのかかわりが特に取り上げられている。

(2) 自然と関わる活動

「地域の自然に接したり」、「散歩に出かけて自然と触れ合う」、「公園や広場など、自然環境の豊かな場所に出かけ、戸外で遊ぶ」、「動植物や土、砂、水や光、それらを含めた野外の自然に触れて」というように、自然と関わる活動が挙げられている。その内容として、自然と接したり触れたりして直接体感することや、自然の中で遊ぶことが重視されているといえる。また、公園や広場内のような人工的な自然も含め、「動植物や土、砂、水や

表 2. 『保育所保育指針解説書』において 5 領域の内容とのかかわりで挙げられている「園外へ歩いて出かける活動」の具体的内容とその保育的意義

5領域	内容	具体的内容	保育的意義
健康	③進んで戸外で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 「公園や広場など、自然環境の豊かな場所に 出かけ、戸外で遊ぶ」 「散歩」 	<ul style="list-style-type: none"> 「戸外で遊ぶことの心地よさを十分に味わう」 「自然は、子どもに様々な刺激を与え」る。 「戸外は自然の不思議さやおもしろさに満ちており、子どもに多くの興味や関心を抱かせ」る。 「乳児にとっても、外気に触れることは大切であり、五感を通して様々な感覚や知覚を得てい」く。
	⑨危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の安全に関わる行事などに参加」する。（園外活動のみ対象） 	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども自らが安全に対する認識や関心を高め」る。
人間関係	⑬高齢者を始め 地域 の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 「散歩」 「地域の人と挨拶を交わ」す。 「地域の高齢者施設などを訪れ」る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人への関心を深め」る。 「人は周囲の人と関わり、支え合いながら生きていることに気付」く。
環境	③自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> 「野外の自然に触れて過ごすような「子どもが全身を介して直接自然と触れ合う体験」（文脈から判断）」 「動植物や土、砂、水や光、それらを含めた野外の自然に触れて過」ぐす。 「野外の自然を「遊びに取り入れ」る。（文脈から判断）」 	<ul style="list-style-type: none"> 「直接自然と触れ合う体験は、子どもの心を癒す」 「自然に対する驚きの気持ちや、その美しさに感動する気持ちを子どもに抱かせ、その不思議さに魅せられる中で様々な気付きを得」る。 「好奇心や探究心、思考力が生まれて」くる。 「子どもが科学的な見方や考え方の芽生えを培う基礎となる」 「身近な自然に心動かしながら保育士等や友達と共感」する。
	⑤季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> 「散歩」 	<ul style="list-style-type: none"> 「温度の変化、木々の葉の色のうつろいや、日差しの強さ、風の冷たさなどを通して季節によって自然が変化することに気付」く。 「自然の変化に伴って、食べ物や衣服、生活の仕方など、人間の生活も様々な変化することに関心を持つ」
	⑫ 近隣 の生活に興味や関心を持ち、 保育所内外 の行事などに喜んで参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 「身近な大人の様子を観察し、模倣したり、イメージを取り込んでい」く。 「保育所内外の行事に参加」する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大人の仕事や生活に興味を持」つ。 「近隣の人々の生活や環境などへの興味や関心を広げてい」く。 「電車やバス、消防署や図書館などの公共機関にも関心を持」つ。 「地域には様々な場があり、様々な人がいることを知」る。 「保育所内外の行事に参加し、その雰囲気味わったり、楽し」む。 「保育所外の行事に参加し「徐々にその中で自分なりの役割を果たす」 「社会の事象に関心を持」つ。 「人と人が支え合って生活していることに気付」く。 「人の役に立とうとしたりする気持ちが芽生え」る。

※ 部分は、研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。

光、それらを含めた野外の自然」の記述のような豊かな自然と関わる事が強調されている。

(3) 散歩

「散歩」,「散歩に出かけて自然と触れ合う」のように、気分転換や健康維持という意義もある「散歩」が、独立して取り上げられている。

3.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」の保育的意義の整理と考察

1)「園外へ歩いて出かける活動」の保育的意義の整理

表2は、『保育所保育指針解説書』における5領域の内容とのかかわりで挙げられている「園外へ歩いて出かける活動」の具体的内容と保育的意義(養護面及び教育面での意義)を整理したものである。

保育的意義は、領域「健康」、「人間関係」、「環境」の中で見出されている。そして、領域「環境」内容⑩「近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。」、次いで「環境」内容③「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」とのかかわりで、その保育的意義が多く挙げられている。

2)「園外へ歩いて出かける活動」の保育的意義の考察

表2に挙げた保育的意義をKJ法を参考に分類し、その内容に適した項目名をつけたものが、表3である。その項目は、「心の癒し」、「心地よさ」、「五感を働かせる」、「思考力」、「自然に対する驚き・不思議さ・感動・興味・関心」、「自然や生活の季節による変化への気付き・関心」、「安全に対する認識・関心」、「人間社会への興味・関心」、「人間社会についての気付き・実感」、「役割・立場への興味・経験」の10項目である。

また、保育的意義の「刺激を与え」、「感覚や知覚を得て」、「気付き」、「興味や関心を抱かせ」、「心動かしながら」、「認識や関心を高め」などの記述から、子どもの世界を広げていくことが強く意識されているといえる。

4.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項に関する考察

1)「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項の抽出

表1で抽出した研究対象活動を表す記述を手がかりに、保育所における「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項を抽出したものが表4である。注目したのは、『保育所保育指針解説書』「第3章 保育の内容」の「2. 保育の実施上の配慮事項」と、「第4章 保育の計画及び

表3.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」の保育的意義の分類

項目名	保育的意義
心の癒し	・「子どもの心を癒す」
心地よさ	・「戸外で遊ぶことの心地よさを十分に味わう」(園外のみを対象)
五感を働かせる	・「自然は、子どもに様々な刺激を与え」る。 ・「乳児にとっても、外気に触れることは大切であり、五感を通して様々な感覚や知覚を得ていく」。
思考力	・「好奇心や探究心、思考力が生まれて」くる。 ・「子どもが科学的な見方や考え方の芽生えを培う基礎となる」
自然に対する驚き・感動・不思議さ・興味・関心	・「自然に対する驚きの気持ちや、その美しさに感動する気持ちを子どもに抱かせ、その不思議さに魅せられる中で様々な気付きを得」る。 ・「戸外は自然の不思議さやおもしろさに満ちており、子どもに多くの興味や関心を抱かせ」る。 ・「身近な自然に心動かしながら保育士等や友達と共感」する。
自然や生活の季節による変化への気付き・関心	・「温度の変化、木々の葉の色のうつろいや、日差しの強さ、風の冷たさなどを通して季節によって自然が変化することに気付」く。 ・「自然の変化に伴って、食べ物や衣服、生活の仕方など、人間の生活も様々な変化することに関心を持つ」
安全に対する認識・関心	・「子ども自らが安全に対する認識や関心を高め」る。
人間社会への興味・関心	・「大人の仕事や生活に興味を持」つ。 ・「人への関心を深め」る。 ・「近隣の人々の生活や環境などへの興味や関心を広げてい」く。 ・「電車やバス、消防署や図書館などの公共機関にも関心を持」つ。 ・「社会の事象に関心を持」つ。
人間社会についての気付き・実感	・「人は周囲の人と関わり、支え合いながら生きていることに気付」く。 ・「人と人が支え合って生活していることに気付」く。 ・「保育所内外の行事に参加し、その雰囲気を楽しんだり、楽し」む。 ・「地域には様々な場があり、様々な人がいることを知」る。
役割・立場への興味・経験	・「人の役に立とうとしたりする気持ちが芽生え」る。 ・「保育所外の行事に参加し「徐々にその中で自分なりの役割を果たす」

評価」の1の「(3) 指導計画の作成上、特に留意すべき事項」と、「第5章 健康及び安全」の2の「(2) 事故防止及び安全対策」である。

2)「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項に関する考察

表4より、領域「健康」での配慮事項は、「一人一人

の子どもの健康状態を把握」や「紫外線などの対策に配慮」などの健康面に関する配慮事項と「交通安全」、「災害時」、「非常時」、「不審者への対応」など安全面での配慮事項に分類できる。

領域「環境」では、自然に触れたり接したりする機会を計画的に多く設けることが特に強調されている。研究対象活動の保育的意義については、自然とかかわること

表4.『保育所保育指針解説書』における「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項の示されている項目とその内容

項目	配慮事項として挙げられている内容
(健康) 内容③進んで戸外で遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一人の子どもの健康状態を把握」する。 ・「紫外線などの対策に配慮しながら散歩」をする。
内容⑨危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「交通安全や避難訓練などを定期的に計画、実施する」 ・「災害時の行動や避難場所、非常時の行動、不審者への対応などについて、保育士等の指示を聞いて行動できるようにしておく」
(環境) 内容③自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「散歩に出かけ」て自然と触れ合う機会を作」る。 ・「身近な動植物や自然事象に子どもが接する機会を多く持つ」 ・「保育士等自身が感性を豊かに持ち、自然の素晴らしさに感動することや、子どもの気付きに共鳴していくことが求められる」る。
内容⑤季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「散歩の機会」に「季節の変化に目を向けたり、気付いたりしていくことができるよう、自然に触れる機会を計画的に設け」る。 ・「保育士等が季節感を取り入れた生活を楽しめるような取組も求められる」。(園外の活動のみ対象)
内容⑫近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園外の行事に参加する際には、「保育士等が子どもの気付きに共感しながら、適切に働きかけていくことが求められます。」
(3歳以上児の保育に関わる配慮事項) ウ 様々な遊びの中で、全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・「戸外で伸び伸びと遊ぶことができるように保育の計画を立て」る。(園外の活動のみ対象) ・「子どもが動植物をはじめとする様々な自然に触れ、季節感を味わうことができるよう、公園や野原など、保育所外へ出かけて活動する機会を持つ」 ・保育園外に出て活動する際は、「保育士等は常に子どもの安全及び衛生に配慮する」
(指導計画の作成上、特に留意すべき事項) オ 家庭及び地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭や地域の機関及び団体の協力を得」る。 ・「地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験を始め保育内容の充実が図られるよう配慮する」 ・「地域社会で子どもが身近な環境に触れそれぞれに経験したことが、保育所での生活に生かされていくことが大切です。」 ・「地域の自然に接したり、異年齢の子どもをはじめとする幅広い世代の人々と交流したり、社会の様々な文化や伝統に触れたりする直接的な体験」を得る機会を「積極的に」設ける。 ・「保育所内外において子どもが豊かな体験を得る機会を積極的に設ける」 ・「保育所外での活動においては、移動も含め安全に十分配慮する」 ・「子どもの発達や状態を丁寧に把握し、一人一人の子どもにとって無理なく充実した体験ができるよう指導計画に基づいて実施する」 ・「様々な地域の資源を活用するためには、保育士等が日頃から身近な地域社会の実情をしっかりと把握しておく」 ・様々な地域の資源を活用するには、「地域から保育所の存在やその役割が認知され、子どもや保育について理解や親しみを持って見守られていること」 ・「地域との密接な連携を図りながら子どもの生活がより充実したものとなるよう指導計画を作成することが求められる」る。
健康及び安全(2)事故防止及び安全対策 ア	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園外での保育の安全のために「子どもの心身の状態等を踏まえ」る。 ・「保育所内外の安全点検に努め」る。 ・「安全対策のために職員の共通理解や体制作りを図る」 ・「家庭や地域の諸機関の協力の下に安全指導を行うこと。」
①日常の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが日常的に利用する散歩経路や公園等についても、異常や危険性がないか、工事箇所や交通量等を含めて点検し記録をつけ、その情報を全職員で共有します。」

※ 部分は、研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。

よりも社会にかかわることの記述箇所が多いが、自然と
かかわる機会を計画的に多くとることが奨励されている
ので、必ずしも社会とかがかわることがより重視されてい
るわけではないと考えられる。

また、「保育士等自身が感性を豊かに持ち、自然の素
晴らしさに感動することや、子どもの気付きに共鳴して
いくことが求められ」、「保育士等が子どもの気付きに共
感しながら、適切に働きかけていくことが求められま
す。」という保育士に求められる資質や態度が挙げられ
ている。このことは、「園外へ歩いて出かける活動」の
保育効果が、保育士の資質に大きく左右されるというこ
とであるといえ、保育士の資質向上のための研修の重要
性が示唆される。

「3歳以上児の保育に関わる配慮事項」の「ウ」では、
「全身を動かして意欲的に活動することにより、体の
諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や
関心が戸外にも向くようにすること。」という配慮事項

をもとに、子どもの興味や関心が戸外に向くようにする
ために、保育園外へ出かけて活動する機会を持つことが
大切であると述べられている。この部分からも、子ども
の世界を広げることが特に意識されているといえる。ま
た、園外での活動の時の安全面や衛生面の配慮も必要で
あることが述べられている。

「指導計画の作成上、特に留意すべき事項」の「オ」
では、まず、家庭や地域の関係機関や団体の協力を得る
ことが挙げられている。その中で地域の資源の積極的な
活用が挙げられている。地域の資源を積極的に活用し、
豊かな生活体験をし、保育内容を充実させることが挙げ
られている。また、安全面や発達状態の把握の配慮事項
も挙げられている。そして、地域との連携に当たり必要
なこととして、身近な地域社会の把握、保育園の地域か
らの認知と理解の必要性が挙げられている。

「健康及び安全」の「(2)」のアの部分と「(2)の①」
では、研究対象活動を行うために、まず、健康上の配慮

表5.『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」と判断した根拠となるキーワードとその具体的記述例と掲載回数

研究対象活動 のキーワード	具 体 的 記 述	掲載 回数
地域	「地域の行事への参加」(p.17) 「地域は様々な人々との交流」(園外活動のみ対象)(p.18) 「農家などの地域の人々との交流」(園外活動のみ対象)(p.86) 「地域の人々との交流」(園外活動のみ対象)(p.107) 「地域の人たちと積極的にしかかわる体験」(園外活動のみ対象)(p.107) 「地域の人たちとのかかわり」(園外活動のみ対象)(p.107) 「地域の人々や障害のある幼児などとの交流の機会」(園外活動のみ対象)(p.107) 「地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い」(園外活動のみ対象)(p.118) 「地域の人々で自分の生活と関係が深い人と触れ合ったり、交流したりする」(園外活動のみ対象)(p.118) 「地域の自然と触れ合う」(p.122) 「幼稚園内外の自然や地域社会の人々の生活に日常的に触れ」(p.124) 「四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる」(p.124) 「地域の行事などに参加」(p.132) 「地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用」(p.217) 「地域の資源を活用」(園外活動のみ対象)(p.218) 「地域の祭りや行事に参加」(p.218) 「地域の文化や、伝統に十分触れ」(p.218)	18
園外	「近隣の公園や広場、野原や川原などの園外に出掛ける」(p.73) 「園内外の身近な自然に触れて遊ぶ」(p.120) 「幼稚園内外の自然や地域社会の人々の生活に日常的に触れ」(p.124) 「園外保育」(p.124) 「幼稚園の外に出掛ける」(p.124) 「幼稚園内外の行事」(p.132) 「園外の活動」(p.218)	7
訪問	「近くにある自然の多い場所や高齢者のための施設への訪問」(p.17) 「高齢者福祉施設を訪問して交流」(p.107) 「図書館や高齢者施設などの様々な公共の施設を利用したり、訪問したりする」(p.131)	3
近隣	「近隣の公園や広場、野原や川原などの園外に出掛ける」(p.73) 「近隣の自然公園…活用」(p.218)	2
出掛ける	「近隣の公園や広場、野原や川原などの園外に出掛ける」(p.73) 「幼稚園の外に出掛ける」(p.124)	2

※ 部分は、研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。()内は、ページを表す。

事項が挙げられている。次に、園外の安全点検の必要性和職員間の共通理解と家庭・地域との協力の必要性が挙げられている。

これをまとめると、『保育所保育指針解説書』における研究対象活動の配慮事項では、健康状態の把握と事故防止と衛生に関する配慮事項、自然に触れたり接したりする機会を計画的に多く持つことを奨励する配慮事項、保育者の資質や態度に関する配慮事項、保育内容の充実に関する配慮事項、地域社会との連携に関する配慮事項がある。中でも健康状態の把握と事故防止に関する配慮事項は10箇所あり、保育内容「環境」を除く全ての部分に書かれており、最も強調されているといえる。

Ⅲ.『保育所保育指針解説書』と『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」に関する記述の相違点

1.『保育所保育指針解説書』と『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」を示す記述の相違点

1)「園外へ歩いて出かける活動」を示す記述の相違点

表5は、『幼稚園教育要領解説』全章より抽出した研究対象活動と判断した根拠となるキーワードと、具体的記述とその掲載回数を表している。その具体的記述内のキーワードには網掛けをしている。なお、具体的記述内にキーワードが2つ入っている場合は、それぞれのキーワードの具体的記述として挙げている。

表1と表5を比較すると、「園外へ歩いて出かける活動」を示す記述の相違点は、「散歩」が『保育所保育指針解説書』にのみ使用されていることである。保育園では、「養護及び教育を一体的に行う」ことを保育の特性としており、保育時間が長い保育園では、養護に関することから「気晴らしや気分転換でぶらぶら歩く」ことが情緒の安定を図る意味もあり「散歩」という語句が使われているのではないかと考えられる。一方、幼稚園は教育機関であり、保育時間も短く、目当てもなく「気晴らしにぶらぶら歩く」ことはないので、「散歩」という記述が使われないのではないかと考えられる。

2)「園外へ歩いて出かける活動」の行われる場所の相違点

「園外へ歩いて出かける活動」の行われる場所について、公共施設では、「図書館」という記述が、『幼稚園教育要領解説』のみにある。しかし、研究対象活動が行われる場所については、相違点はないと考えられる。

3)「園外へ歩いて出かける活動」の内容の相違点

「園外へ歩いて出かける活動」の内容については、安全指導が『保育所保育指針解説書』のみで取り上げられているが、その他の部分については、相違点はないといえる。

2.『保育所保育指針解説書』と『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」の保育的意義の相違点

表6は、『幼稚園教育要領解説』における5領域の「ねらい」又は「内容」と「内容の取扱い」とのかかわりで挙げられている「園外へ歩いて出かける活動」の具体的内容と保育的意義を整理したものである。

『保育所保育指針解説書』と『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」の保育的意義については、記述箇所の多い領域・内容に違いがある。表2と表6を比較すると、『保育所保育指針解説書』では、記述箇所が多いのは、領域「環境」の内容⑩「近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。」である。次いで、領域「環境」の内容③「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」である。『幼稚園教育要領解説』で記述箇所が多いのは、領域「環境」内容(1)「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。」であるが、その次が、領域「健康」内容の取扱い(4)「健康な心と体を育てるためには食育を通じた…様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。」と、領域「環境」内容(3)「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。」である。

3.『保育所保育指針解説書』と『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項に関する相違点

表5の研究対象活動を表す記述を手がかりに、幼稚園における「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項を抽出したものが表7である。注目したのは、『幼稚園教育要領解説』「第2章 ねらい及び内容」の「第2節 各領域に示す事項」と、「第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の「第2節 一般的な留意事項」の「7 家庭や地域社会との連携」の「(8)」である。

表4と表7を比較すると「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項の相違点は、その重視されている内容にみられる。『保育所保育指針解説書』の方が、健康状態の把握と事故防止に関する記述箇所が多く、最も強調されていると考えられる。また、保育士等が日頃から身近な地域社会の実情を把握することや、地域から保育園の存在やその役割が認知されるよう情報発信や密接な連携を図るなどの配慮が挙げられている。このことから、保育園の方が、養護面や地域に受け入れられていくことが重視されていると考えられる。

表 6. 『幼稚園教育要領解説』において 5 領域のねらい又は内容・内容の取扱いとのかかわりで挙げられている「園外へ歩いて出かける活動」の具体的内容とその保育的意義

5 領域	ねらい・内容等の項目	具体的内容	保育的意義
健康	内容(3)進んで戸外で遊ぶ。	・「園庭ばかりではなく、近隣の公園や広場、野原や川原などの園外に出掛ける」	・「戸外で過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わう」
	内容の取扱い(4)健康な心と体を育てるためには食育を通じた…様々な食べ物への興味や関心を持ったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。	・「農家などの地域の人々との交流」（園外活動のみ対象） ・「地域や…の協力を得ながら食べることにしかかわる体験」（園外活動のみ対象）	・「食べ物への関心が高まる」 ・「食べ物に親しみを感じ、興味や関心をもつ」 ・「進んで食べようとする気持ちが育つ」 ・「幼児なりに食べ物を大切にする気持ちや、用意してくれる人々への感謝の気持ちが自然に芽生えていく」
人間関係	内容(13)高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもち。	・「地域の人たちと積極的にかかわる」（園外活動のみ対象） ・「地域の人たちとかかわる。（園外活動のみ対象）」 ・「高齢者福祉施設を訪問」する。（園外活動のみ対象）	・「人としかかわる力を育てる」 ・「人間は一人だけで孤立して生きているのではなく、周囲の人たちとかかわり合い、支え合って生きているのだということを実感する」
環境	ねらい	・「園内外の身近な自然に触れて遊ぶ」	・「その大きさ、美しさ、不思議さに心を動かされる」 ・「幼児はそれら（園外の身近な自然）を利用して遊びを楽しむ」 ・「幼児はこのような（身近な自然に触れる）遊びを繰り返し、様々な事象に興味や関心をもつようになる。」
	内容(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	・「地域の自然と触れ合う」	・「全身で自然を感じ取る」 ・「心がいやされる」 ・「多くのことを学んでいる」 ・自然の「その大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取る」 ・「自然と出会い、感動するような体験は、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情などを育てる」 ・「科学的な見方や考え方の芽生えを培う上で基礎となる」
	内容(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。	・「幼稚園内外の自然や地域社会の人々の生活に日常的に触れる」 ・「幼稚園の外に出掛ける」 ・「四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる」	・「季節により自然や人間の生活に変化があることに幼児なりに関心をもつ」 ・「幼児が季節の変化に気付く」 ・「季節による自然や生活の変化を感じる」 ・「春の草花や木の芽、真夏の暑い日差し、突風にさらされて舞い散る落ち葉など、幼児は日々の生活の中で季節の変化を感じる」
	内容(10)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。	・「図書館や高齢者福祉施設などの様々な公共の施設を利用したり、訪問したりする」	・「豊かな生活体験を得られる」 ・「公共心の芽生えを培っていく」
	内容(11)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。	・「地域の行事などに参加したりする中で、日本の国旗に接」する。	・「日本の国旗に接し、自然に親しみをもちようにし、将来の国民としての情操や意識の芽生えを培う」

※ 部分は、研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。

IV. 「園外へ歩いて出かける活動」に関する保育課程編成時の留意点についてのカリキュラムマネジメントの観点からの考察と今後の課題

「園外へ歩いて出かける活動」に関する国の基準を把握するため、『保育所保育指針解説書』における関係記述を分析・整理し、さらに、『幼稚園教育要領解説』に

おける関係記述との相違点を明らかにしてきた。ここにおいて、保育園において、保育課程編成時に、「園外へ歩いて出かける活動」に関する国の基準を充足するための留意点について考察する。

最初に、抽出した研究対象活動についての記述では、「歩いて出かける活動」ではなく、「交通機関を使って

表 7.『幼稚園教育要領解説』における「園外へ歩いて出かける活動」の配慮事項の示されている項目とその内容

項目	配 慮 事 項
(人間関係) 内容 (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。	・「 地域 の人々との交流を図る上で重要なことは、それが幼児の発達にとって有意義であることはもとより、幼児とかかわる地域の人たちにとっても、幼児に接することによって心がいやされ、夢と希望がはぐくまれるなどの点で有意義なものとなることである。」
(環境) ねらい	・「園児の周囲には、園内や 園外 に様々なものがある。…教師は、幼児がこれらの環境にかかわり、豊かな体験ができるよう、意図的、計画的に環境を構成する」
内容 (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	・「自然と触れ合う体験を十分に得られるようにするためには、… 地域 の自然と触れ合う機会をつくったりして、幼児が身近にかかわる機会をつくる」 ・「幼児は日常の何気ない生活場面で心を揺り動かしている。このような幼児の自然との出会いを見逃さないようにすることが教師のかかわりとして大切である。」
内容 (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。	・「季節により変化のあることに気付くということは、必ずしも、変化の様子を完全に理解したり、言葉に表したりするということではない。…何気なく触れているものでも季節によって感触や感じ方が異なるといったように、幼児自身が全身で感じ取る体験を多様に重ねることが大切である。」 ・「幼児が四季折々の変化に触れることができるように、 園外 保育を計画していく」 ・地域の人々の営みの中にあふれていた季節感を失わないように「秋の収穫に感謝する祭り、節句、正月を迎える行事など四季折々の 地域 や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつ」
内容 (10) 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。	・「公共の施設などを利用する際は、幼児の生活にかかわりが深く、幼児が興味や関心をもてるような施設を選択したり、 訪問 の仕方を工夫したりする必要がある。」 ・公共の施設を利用する際は、「このような施設が皆のものであり、大切に利用しなければならないことを指導する」
(一般的な留意事項) 7 家庭や地域社会との連携	・「 地域 の自然、人材、行事や公共施設などの 地域 の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫する」 ・「 地域 の資源を活用し、幼児の心を揺り動かすような豊かな体験が得られる機会を積極的に設けていく」 ・「自然の中で幼児が豊かな生活体験をすることが大切であり、家庭との連携を図りながら、 近隣 の自然公園…の活用なども考えていく」 ・「園外の活動は、幼児の発達を十分に考慮した計画の下に実施する」 ・「保護者の参加なども考え、安全に配慮して実施すること」 ・「 地域 の祭りや行事に参加したりして、自分たちの住む地域に一層親しみを感じたりする」 ・幼児が地域の祭りや行事に参加することを通して「 地域 の文化や伝統に十分触れて、豊かな体験をする」

※ 部分は、研究対象活動と判断した根拠となるキーワード

出かける活動」である可能性がある。したがって「交通機関を使って出かける活動」とセットで、それぞれの園のおかれた環境や園の考え方により、どちらかを選択しながら、本研究で述べた内容を実現する実践を案出する必要がある。その要旨は、次のとおりである。

保育園における研究対象活動の場所は、豊かな自然のある場所と公共施設が候補地として挙げられている。また、目的地までの移動経路ないしコースそのものも研究対象活動の場所といえる。

保育園における研究対象活動の内容は、自然と接して直接体感したり自然の中で遊んだりすること、地域の行事へ参加する活動や地域社会との交流が挙げられている。そして、幼稚園との相違点は、「散歩」が独立したものとして取り上げられていることや、安全指導として行われることもあることが挙げられる。つまり、保育の全体計画の編成時に、これらにかかわる保育実践を取り

入れることが、保育園特有の留意点ということになる。

保育園における研究対象活動の保育的意義は、10項目に整理できる。それは、「心の癒し」、「心地よさ」、「五感を働かせる」、「思考力」、「自然に対する驚き・不思議さ・感動・興味・関心」、「自然や生活の季節による変化への気付き・関心」、「安全に対する認識・関心」、「人間社会への興味・関心」、「人間社会についての気付き・実感」、「役割・立場への興味・経験」である。また、子どもの世界を広げていくことが強く意識されている。そして、保育園特有の留意点は、「安全に関する認識・関心」を含めることである。

保育園における研究対象活動の配慮事項としては、健康面や安全面に関すること、自然に触れたり接したりする機会を計画的に多く設けること、保育士に求められる資質や態度に関すること、保育内容の充実に関すること、地域との連携に関することが挙げられる。そして、

保育園特有の留意点は、健康面や安全に関する配慮事項が多くあることと、地域に受け入れられていくことが重視されることである。

この分析の結果の中で特に注目する点は、まず、「園外へ歩いて出かける活動」は、単独で考えられるものではないということである。実際の保育課程編成時には、「交通機関を使って出かける活動」とセットで構想していく必要があるということである。

次に、保育的意義で、地域の行事への参加や地域社会との交流の記述箇所が多いが、自然とかかわることについては、その機会を多くとることが奨励されているので、必ずしも社会にかかわることの方が重視されているわけではないということである。しかも、保育士の自然への感性など、資質に関する問題が重要となっている。

さらに、研究対象活動の活動内容、保育的意義、配慮事項において、散歩や安全や健康にかかわる養護に関することと地域に受け入れられていくことが、幼稚園以上に重視されていることである。

これらのことを要点として踏まえながら、実際の保育課程編成時に、その保育課程内の「園外へ歩いて出かける活動」に関する部分全体で、表1～4の内容が考慮されていると共に、その部分全体の中に、園の特長となる「園外へ歩いて出かける活動」の実践が案出されていることが求められる。その手順に関する研究が、今後の課題となる。この研究は、各保育園が、保育課程のPDCAサイクルの流れの中で「園外へ歩いて出かける活動」を展開していくための最初のP段階の手順を得るために、必要であると考えられる。

一注一

- 1 筆者らが日常的に関係している保育所は、公的に〇〇保育園という名称を用いている。そのことを尊重し、本研究では、保育園という名称を用いる。
- 2 カリキュラムマネジメント研究の例として、渡邊祐三、横松友義「保育課程に基づく保育実践の自己評価観点明確化手順の開発—私立御南保育園でのアクション・リサーチ—」(『教育実践学論集』13, pp.137 - 146, 2012), 山中秀馬、横松友義「幼稚園における実効のある保育目標の明確化手順の開発—私立清和幼稚園でのアクション・リサーチ—」(『教育実践学論集』12, pp.135 - 144, 2011)などを挙げることができる。

一文 献一

- (1) 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館, p.147, 2008
- (2) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, p.124, 2008
- (3) 水野豊二『＜自然とあそび＞パッケージゲーム3

＞園外保育・山のくらし』明治図書出版株式会社, pp.7-8, 1999

- (4) 厚生労働省, 前掲(1), 「はじめに」
- (5) 厚生労働省, 前掲(1), p.14
- (6) 畠山和人監修 窪田嘉代子, 山元豊, 内野瑤子著『詳解! 保育園経営の基本と発展—時代をつなぐ保育理念—』聖公会出版, p.67, 2007
- (7) 雑賀竜一『地域で1番の園をめざして! 幼稚園の経営を劇的に変える方法』株式会社少年写真新聞社, p.34, 2012